

本日の学び:「和解のための奉仕」 テキスト:第二コリント5章16-21節 (5:14-15参照)

【理解の手がかりとして】

パウロはコリント教会内の自分と対立する人々との対話に努力している。なぜなら、「キリストの愛が駆り立てているから」(5:14a)である。この「キリストの愛」は十字架においてあらわされた大いなる憐れみであり、パウロのあらゆる行動の動機である。

パウロは言う。「一人の方がすべての人のための死んでくださった以上、すべての人も死んだこととなります」(5:14b)と。この「死んで(死んだ)」という表現は、単なる肉体の死ではなく、エゴイズム(自己中心)の死である。そしてそれは言い換えれば「罪からの解放」である。

キリストはその十字架において、「すべての人のために」(5:15a)、すなわちすべての人間の罪の裁きを引き受け、断罪されたのである。それにより、「すべての人」を罪(エゴイズム/自己中心の生き方)から解放してくださった。それは同時に、「復活してくださった方のため」(5:15b)、すなわちキリストのため(神のため)生きるよう召されたのである。この召しは、パウロ(やテモテ)だけにではない。「すべての人」、すなわちコリント教会の人々も、そしてこの私たちが当然に含まれている。

パウロは、以前はキリスト迫害の急先鋒であった。しかし「今は」(5:16)キリストによって自分に死に、キリストの為に生きる者となった。「肉」(同)とは人間的な考え、「知る」(同)とは、「判断」と言い換えても良いだろう。16節を言い換えると、「それで、わたしたちは、今後だれをも人間的な思いで判断しようとはしません」と。

これは、コリント教会内部の「肉」な人々に対する痛烈な批判でもある。キリスト者と言いながら、「肉」な思い、すなわちエゴイズム(自己中心)に凝り固まっている人々に、その在り様の誤りを悟らせるよう語っているのである。

「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」(5:17)は有名な一句。キリスト者の自己理解として重要な句である。「キリストの死において新しい生命が生じた。それは、主のために生きるもの、そして人はその生命にあって主のものである」(NTD 注解)。左記引用書の著者はさらにこう言っている。「キリストの中にある者は新しい被造物である。すなわち、キリストによって終末的に生きる新しい人間の創造が起こった」と。この「終末的に」に注目(※)。

※この17節は「非常な楽観主義」(NTD)も生み出すが、それは「全く人を誤らせる」(同著)。「キリストの中にある新しい存在は、たしかに古い世に出現し、古い世の運命は原理的にはキリストの死と復活によって封印されてしまった。だが、たとえ過ぎ行くものにせよ古い世はまだ存続し、キリスト者はまだ肉の力と戦っている。キリストと共にある彼の命は、神の中にまだ隠されており、栄光の時に至ってでなければ明らかにされない。終末信仰と楽観主義は全く相容れない。」

18節以降、「和解」という最重要ワードが出てくる。「和解」とは、罪を数えないこと、罪の赦しの事柄であり、それはただ<神のみ>がなしうることである。「『和解』とは、神の敵であった罪なる人類と神との間に今や平和と新たな交わりが成ったことを言うのである」(上掲書)。

ここで「和解」について考えてみると、私たちはこの世の関係性における「和解」の必要を説く。同様の用語として「平和」も用いる。パウロも実際にコリント教会の人々との敵対関係に心を痛めている。

ただ、パウロがここで「和解」を口にするのは、徹底して神との関係における「和解」である。こういうのは、何も人間同士、横の関係の「和解」は第二の問題、と言うのではない。ただパウロは、その人間相互の問題の根本となる部分に、神との不和を見ているのである。

この世にあって、人間同士の和解に努めるのは重要であるが、その問題の本質を見誤っては、根本的な解決にはならない。すなわち神との和解（神による罪の赦し・人間による真実な悔い改め）>という新しい創造を経験しなくては、続くものもないのである。

そうしてパウロは「和解」の本質に立ち戻らせつつ、その縦の関係の和解を前提として、横の関係の和解へと信徒たちを招く。「なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているから」(5:14) である。

パウロは言う。「わたしたちはあなたがたに率直に語り、心を広く開きました。わたしたちはあなたがたを広い心で受け入れています。あなたがたは心を狭くしています。・・・あなたがたも同じように心を広くしてください」(6:11-13) と。——「あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識を超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」(エフェソ3:18-19)

『聖書教育』より

- 「世にある教会をかたち作るために集められている私たちもまた世に仕え、世が神と和解する任務を与えられています。簡単な働きではないことを私たちは知っています。しかし、キリストの十字架によって新しく創造された者に委ねられた働きの一つに和解の任務があります。そして、その働きを通して『教会が教会となる』ことを喜びとし、それを探し出して行きたいと思えます。」(聖書の学び～和解のために奉仕する任務)